

# 全容概略調査結果（建物調査）の概要

委員会後修正版

# 1.建物調査の進捗

- 現地での実測調査は概ね完了。
- 今後、一部解体による補足や構造調査を行う。

調査項目		調査方法	旧滄浪閣 (伊藤博文別邸跡・ 旧李王家別邸)	旧大隈重信別邸・ 旧古河別邸	陸奥宗光別邸跡・ 旧古河別邸	西園寺公望別邸 跡・旧池田成彬邸
建築物実測	仕上	・実測・CAD図を作成	完了	完了	完了	継続
	平面・断面		完了	完了	完了	継続
	立面		継続	完了	完了	継続
	伏図、展開、設備 等		未	未	未	継続
損傷	内部・外部	・目視可能な範囲で損傷 の状況確認 (3段階に分類)	未	継続	継続	未
	小屋、床下、設備		未	未	未	未
痕跡	柱	・目視による内部見え掛 かり部(天井上、床下以 外)の痕跡を確認	継続	継続	継続	現地調査結果を 分析中
	造作・仕上		未	未	未	
	小屋		継続	未	未	
	床下		未	未	未	
技法	新旧	・当初と考えられる構造 材や設備機器の仕様 を目視により確認	継続	継続	継続	現地調査結果を 分析中
	構造		未	継続	継続	
	造作・仕上げ		未	未	未	
構造	木造:レベル実測、 常時微動、 基礎劣化  RC造:Co強度、 中性化、 鉄筋探査、 Co版厚調査	木造:水平レーザー照 準器を用いて基準 から敷居又は床ま での高さを測定  RC造:Coコア採取、電磁 波レーダー法、3 次元データ計測等	(木造) レベル実測のみ 完了	(木造) レベル実測のみ 完了	(木造) レベル実測のみ 完了	(RC造) 10月以降実施

### ● 旧滄浪閣(伊藤博文邸跡・李王家別邸)の特徴

#### 【間取・技法等】

- 洋館の南外観は食堂前のベランダを中央に据え、両脇は張り出し窓がある切妻屋根のシンメトリックな意匠となっている。急勾配の切妻屋根や梁木鼻の彫刻的な装飾、欄間ステンドグラスが用いられている。
- 南側に主人の部屋、北側に事務、侍女の部屋を配している。表(客間など)と奥(寝室など)と裏(事務や侍女室)を明確に区分し、裏の空間が大きい。
- 南東側の玄関、居間・客間等の大壁造りの洋室と、南西側の真壁造りの和室を組み合せた和洋折衷の構成になっている。
- 玄関から客間までのパブリック空間に比べ、寝室等のプライベート空間が多い間取りになっており、別荘建築の特徴となっている。



南側の和室の外観(2018年撮影)



南側の和室の外観梁木鼻詳細  
(2019年撮影)



南側の主要室(洋室)の外観(2019年撮影)



欄間ステンドグラス  
(2019年撮影)

### 【痕跡】

- 昭和26年に民間事業者が買収して以降は、南側の主室以外は、大きく間取りの改修や増築がなされている。(現レストラン棟(S27~28)、バンケットホール(H4)、チャペル(H7)等が増築)
- 南側の主室は、一部改修(シャワー等)がなされているが、旧状をよく留めている。北西浴室棟は減築されており、その他の創建時(T15)と想定される範囲は、間取が大きく改変されているものの、ほぼ当初の柱・小屋組等が残る可能性が高い。

### 【構造】

- 基礎は、地中梁で繋げた鉄筋を使用したコンクリート基礎になっている。
- 床組や壁には方杖や筋違を設け、基礎と木部材、木部材間には緊結金物を多用するなど、関東大震災後の耐震に配慮した技術が見られる。



改変された内装の奥に、創建時の小屋組みが見られる  
(2019年撮影)

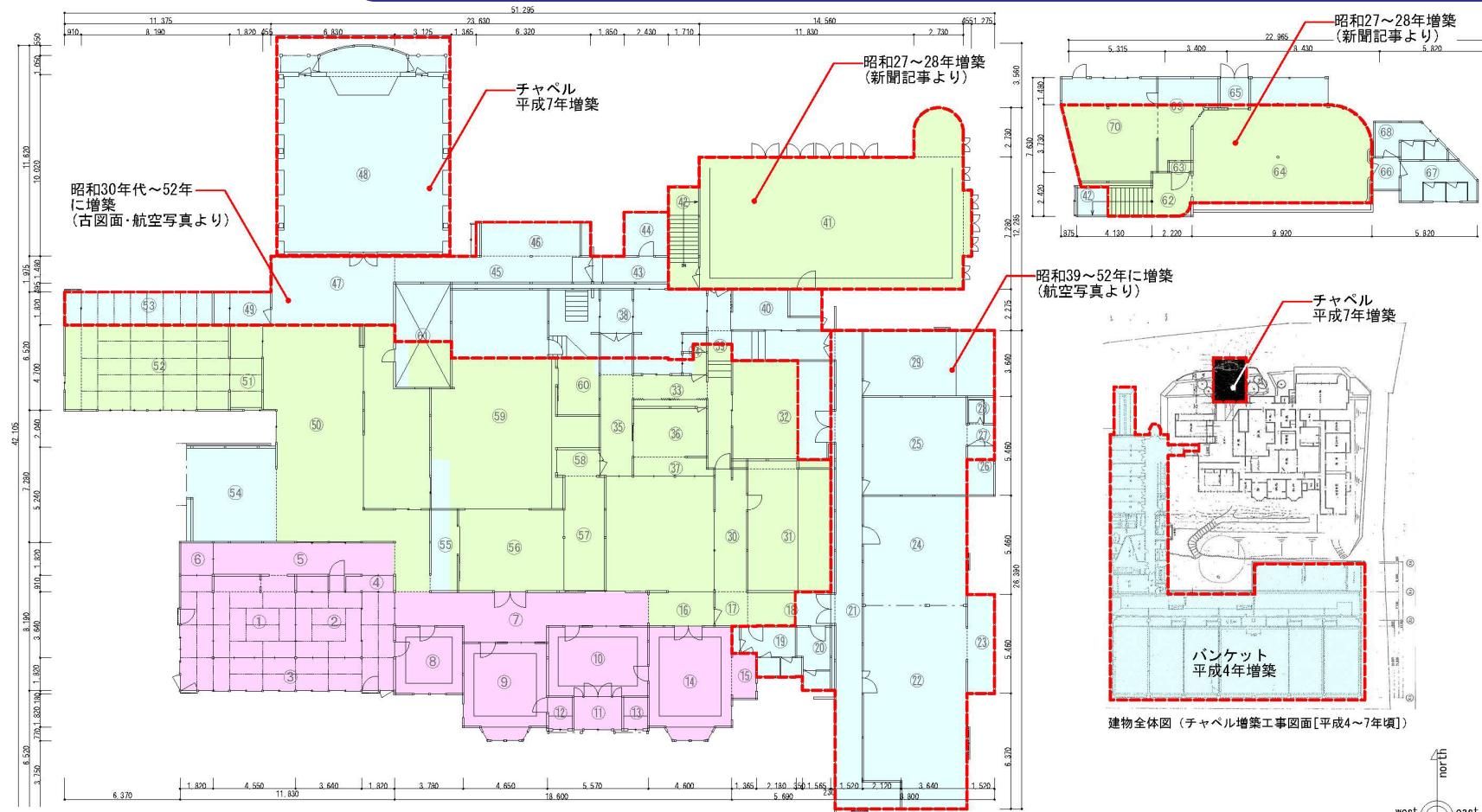


床組には方杖金物が使われている (2018年撮影)

## 2.建物調査の結果 旧滄浪閣(伊藤博文邸跡・李王家別邸)

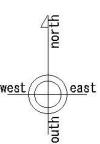
### ● 推定当初範囲

- ・南側主要部は、概ね当初範囲が残ると推定
- ・不明部分は、近年の改変で覆われた箇所を一部解体する詳細調査にて明らかにする予定



[残存範囲] ※2019年10月4日時点

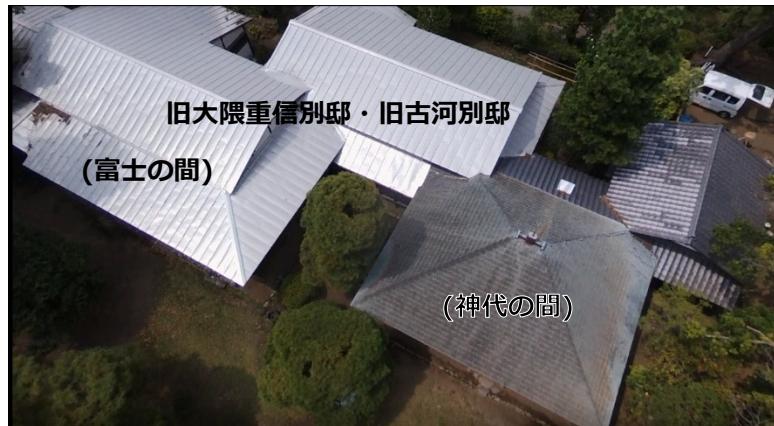
- : 推定当初範囲 (当初材が概ね残る)
- : 推定後補範囲 (当初材が残っていない／増築範囲)
- : 残存不明範囲 (要詳細調査)



#### ● 旧大隈重信別邸・旧古河別邸の特徴

##### 【間取・技法等】

- 南に突き出した主室二室と、中央北奥の縁側を介した田の字型四間取りの雁行型平面は、主室への採光、通風等に配慮した平面計画としている。
- 大隈別邸では、南西に置かれた土蔵と蔵前が、西側(旧鍋島邸)への視線等を遮断する配置になっていたが、現在は土蔵及び蔵前、厨房、浴室等の一部が減築、改修されている。
- 外周廻りは木目が美しい面皮柱がみられ、内部にも正角柱、床柱や神代杉など、厳選された良質材が各所に使用されている。



雁行型の造りになっている (2019年撮影)



神代の間入口面皮柱  
(2019年撮影)



神代杉(推定)の竿縁、廻縁が使用された天井  
(2019年撮影)

### 3.建物調査の結果 旧大隈重信別邸・旧古河別邸

#### 【痕跡】

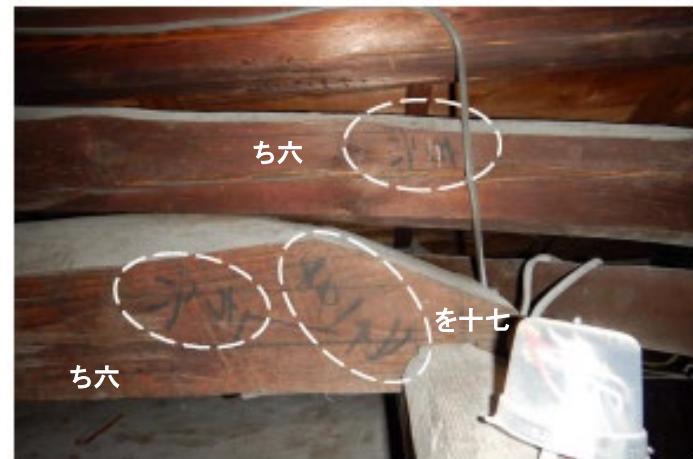
- 敷地西の土蔵と北の物置は増築されたものと推定するが、現時点、建築年は不明である。
- 富士の間、神代の間、北座敷四間は、一部増改修はなされているものの、概ね旧状をよく留めている。
- 床下の間仕切り間に挿入された緊結鉄筋棒や数種類の旧番付(墨書き)など、明治期から、関東大震災を経て、修理・維持されてきた変遷が確認できる。  
きんけつてっきんぱう  
ばんづけ

#### 【構造】

- 基礎は自然石の礎石を基本とし、水廻りや後補増築部にはコンクリート基礎を用いている。
- 軸組は貫構造の伝統工法を用い、小屋組は和小屋組である。  
こうほ  
ぬきこうぞう



増築部のコンクリート基礎部分(2018年撮影)



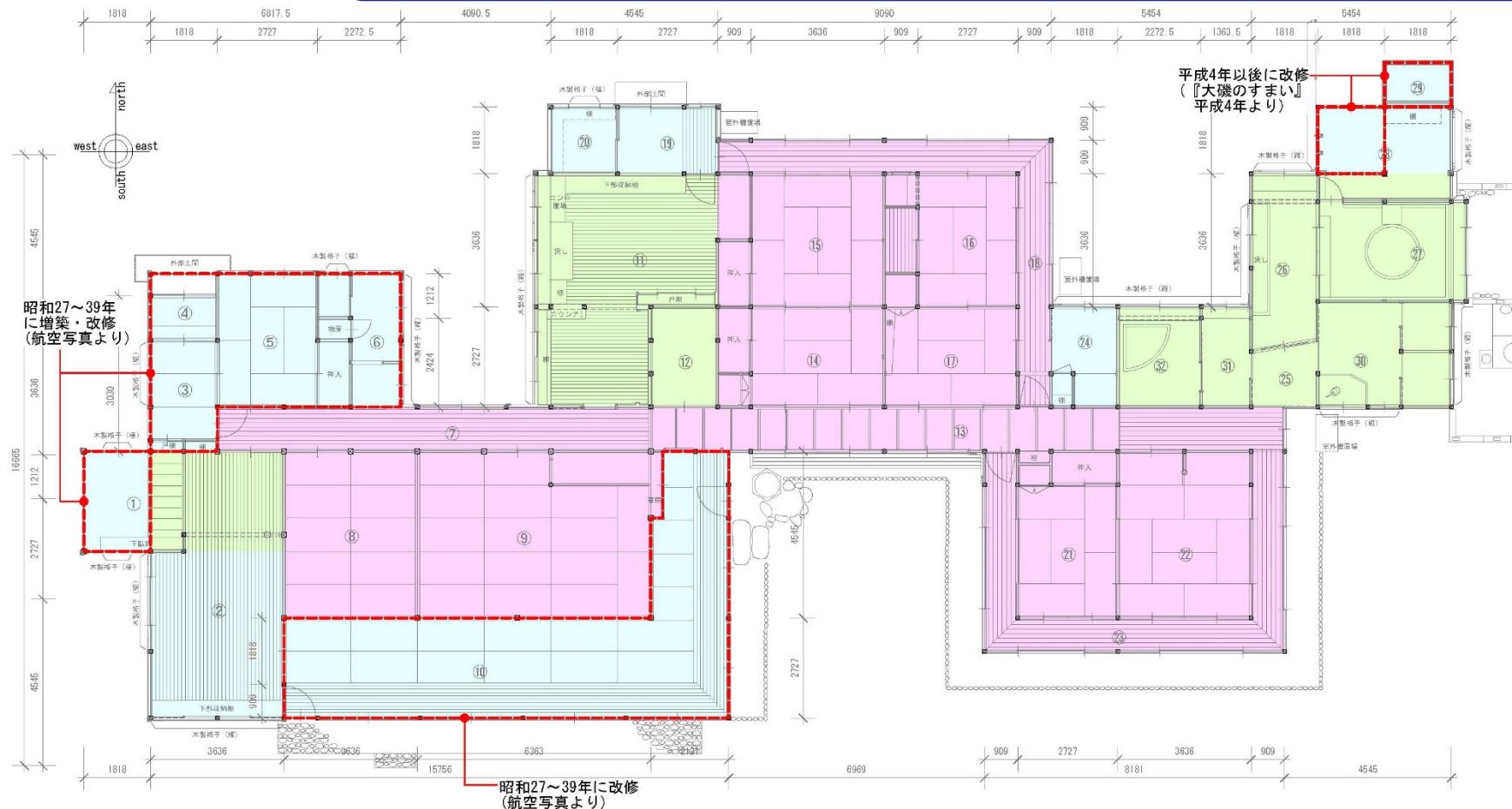
小屋組みの梁、数種類の番付がみられる(神代の間)(2019年撮影)

### 3.建物調査の結果 旧大隈重信別邸・旧古河別邸



## ● 推定当初範囲

- ・富士の間、神代の間、北座敷四間は、部材の仕様、風化具合、増築部との材・工法の違いから概ね当初範囲が残ると推定
  - ・不明部分は、今後の床下や天井裏等の詳細調査で明らかにする予定



[残存範囲] ※2019年10月4日時点

：推定当初範囲（当初材が概ね残る）

：推定後補範囲（当初材が残っていない／増築範囲）

：殘存不明範圍（要詳細調查）

## ● 陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸の特徴

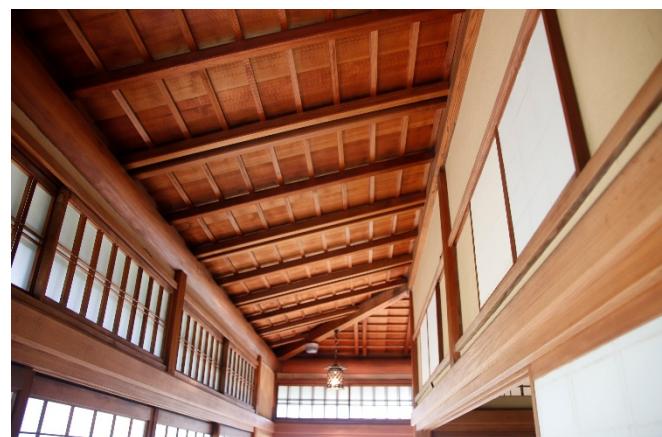
### 【間取・技法等】

- 西側に向かって、階段状に段差を付けた雁行型平面は、海や南西(大隈別邸側)庭園への眺望、通風、採光、プライベート空間への視線に配慮した平面計画になっている。
- 面皮付きの檜柱や芯去材の檜正角材(四方柱等)や本漆塗りの建具など、良質な材を用いた瀟洒で静閑な佇まいは、数寄屋風である。
- 外に入り可能な浴室脱衣場、足洗い場、畳廊下脇の縁甲板張りや、下駄箱床の簀の子張りなど、砂浜での遊楽に配慮した造りがみられる。



面皮付き檜柱

浴室脱衣場は外から行き来ができるようになっている (2019年撮影)



良質な材を用い、採光を多くとる造りになっている (2019年撮影)

## 【痕跡】

- 西側の土蔵とその周辺は、後補増築されたものであるが、その他の部分は、一部内部改修はされているものの、大きな間取り、規模等の改変もなく、旧状をよく留めている。

## 【構造】

- 基礎は自然石の礎石を基本としている。
- 軸組は貫構造の伝統工法を用い、小屋組は和小屋組で、<sup>さんかわらぶき</sup>棟瓦葺の入り組んだ複雑な屋根構成である。



増築されたと思われる陸奥別邸跡の土蔵(2019年撮影)

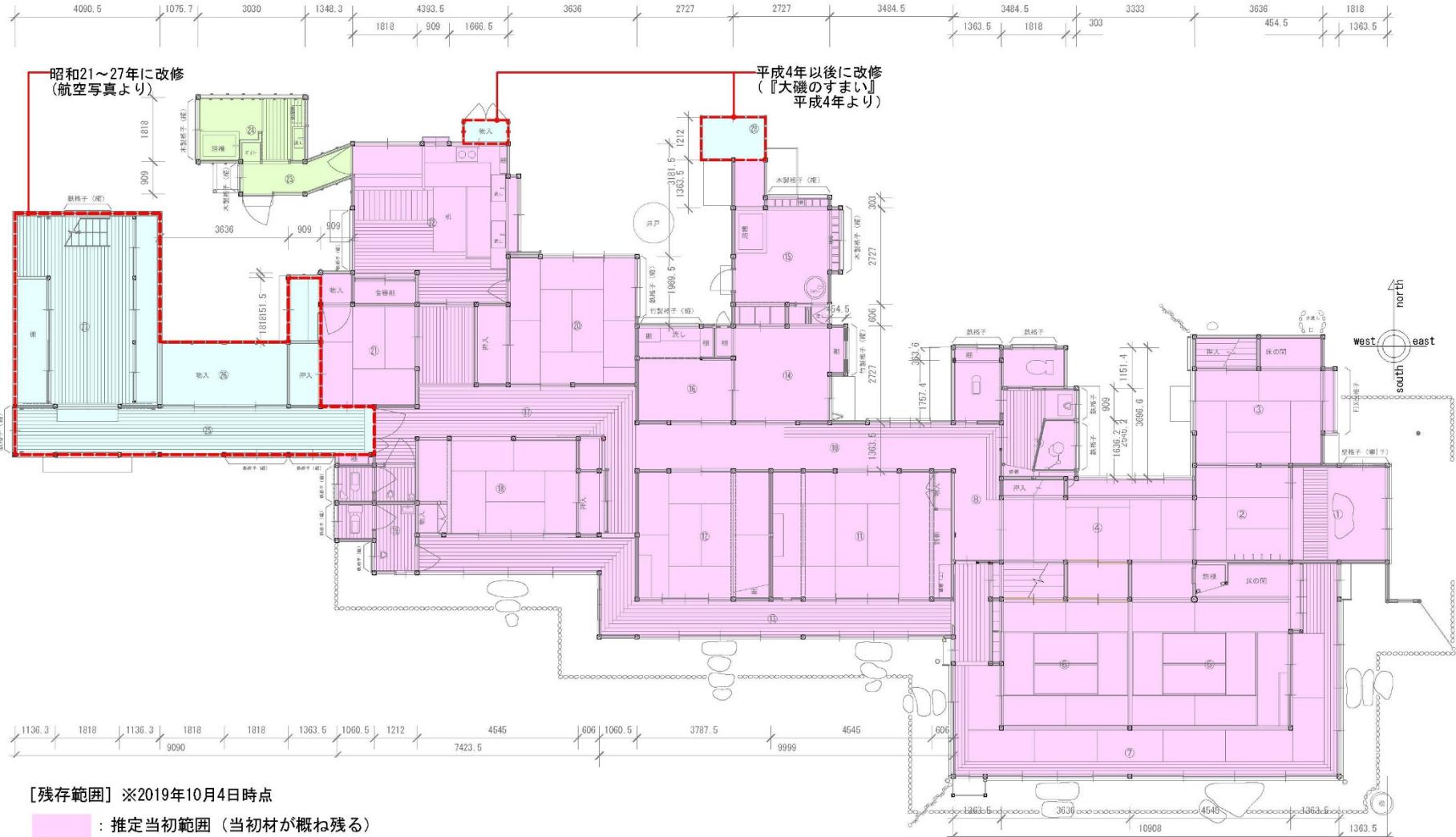


高さの異なる屋根を組み合わせた複雑な屋根構成をしている(2019年撮影)

# 4.建物調査の結果 陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸

## ● 推定当初範囲

- 増築された土蔵等の一部以外は、概ね当初範囲が残ると推定
- 不明部分は、今後の床下や天井裏等の詳細調査で明らかにする予定



[残存範囲] ※2019年10月4日時点

: 推定当初範囲（当初材が概ね残る）

: 推定後補範囲（当初材が残っていない／増築範団）

: 残存不明範囲（要詳細調査）

## ● 西園寺公望別邸跡・旧池田成彬邸の特徴

### 【間取・技法等】

- 地下1階、地上2階の洋館は、使用人の部分以外、全ての部屋が靴を履いたイス式の生活空間になっている。ドアノブの高さや寝室毎に浴室、トイレを備える造りから、海外からの訪問客に対応した間取りが伺える。
- 中央に位置する吹抜けの応接間にを中心に、1階の南側は居間、書斎、温室、食堂といった主人が利用する空間、北側は厨房等のサービス空間に分けられ、2階は、応接間の東西に寝室を配した個室性の高い空間になっている。
- 外壁は石肌調仕上げ<sup>いしはだちょう</sup>、内外の梁は擬木仕上げ<sup>ぎぼく</sup>など、昭和初期の高度な建築技術が用いられている。



池田邸 庭園（昭和14年以前）



池田邸 客間（昭和14年以前）

出典：中條建築事務所『曾禰達蔵・中條精一郎建築事務所作品集』池田氏大磯別邸 1939

- 地下の汽かん室から各部屋に暖房が供給されるセントラルヒーティング(全館集中暖房)や、浴槽等への温水供給など、建築当時の最先端の設備が用いられている。

## 【痕跡】

- 地下の暖房設備(汽かん室、石炭庫)や、照明器具、家具や水洗設備等は、池田成彬が使用した物や、池田が英国で購入した物が多く残っている可能性がある。
- 仕上げや構造などから、門、塀等の外構工作物、付属屋(ガレージ)等もほぼ創建当時(S7)の物が現存していると推定する。

## 【構造】

- 池田の要望により、地震に耐える堅牢な構造とするため、通常よりも厚い壁と基礎構造を用いている。



池田邸客間(昭和24年春)[撮影・土門拳氏(中央は豊夫人、右は小沢利得氏)]

出典: 池田成彬伝記刊行会 編『池田成彬伝』慶應通信.1962



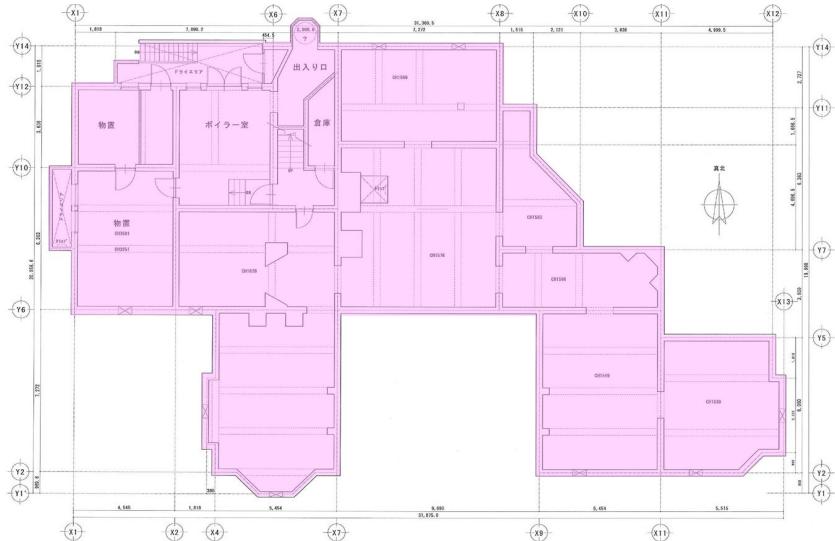
池田邸 客間（昭和14年以前）

出典: 中條建築事務所『曾禰達蔵・中條精一郎建築事務所作品集』

池田氏大磯別邸.1939

## ● 推定当初範囲

- ・邸宅全体が当初範囲の可能性が高く、概ね当初建築が残ると推定
  - ・今後、創建時の図面を入手し整合を検討



[残存範囲] ※2019年10月4日時点

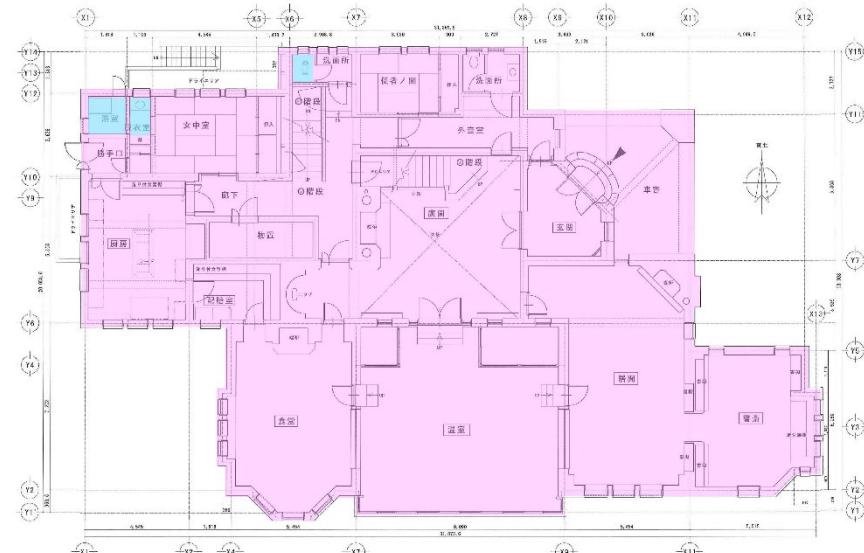
- ：推定当初範囲（当初材が概ね残る）
  - ：推定後補範囲（当初材が残っていない／増築範囲）
  - ：残存不明範囲（要詳細調査）

部局名 亞調查局新大云

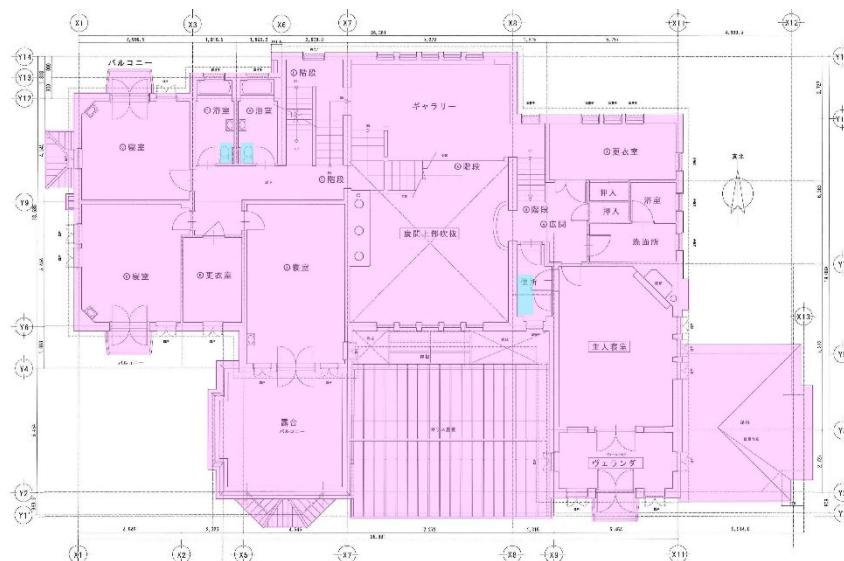
PC端部分显示

■ 本造壁部分を示す

CB壁部分を示す



地上1階



地上2階